



総合医と専門医

—医療崩壊を防ぐ「医師の使い分け」の勧め—

笠間市立病院長 石塚恒夫

近年病院勤務医の不足が問題になっています。当県でもつくば以外は医師不足とされます。笠間市は県立中央病院があるおかげで、産婦人科や小児科などを除けば、医師不足を実感することはありませんでした。しかし最近、県立中央病院が「断らない救急」を実践する中で、入院を必要とする二次救急患者が増加し勤務医が疲弊しています。そこで外来診療で済むような一次救急患者を、平日の夜間に笠間市医師会が輪番で診ることが検討されています。県立中央病院医師の負担を減らし医療崩壊を未然に防ぐことが目的です。

しかしその前に、限られた医療資源をどのように利用すべきか、住民の皆さんも含めた「地域」で検討する必要がありますのではないのでしょうか。兵庫県立柏原病院では救急患者増加が原因で小児科勤務医立ち去りが起きたのをきっかけに、お母さん方が「小児科を守る会」を立ち上げました。緊急性のないコンビニ受診を減らすことで、小児科医の招へいに成功しています。

また「かかりつけ医」の役割強化も必要です。専門医に対する概念として総合医が目されています。総合医は、家庭医とカプライマリケア医などとも呼ばれますが、専門

科にこだわらない包括的な医療を、在宅診療も含めて最期まで継続的に行う医師のことです。専門医が患者の人生の「点」で関わるのに対し、総合医は「線」で寄り添います。高齢者は複数の疾患を重複してもち、身体的にも精神的にも脆弱になっており、状態の悪化を繰り返すことも珍しくありません。その時の病気によって各科専門医が診るよりも、普段の状態を把握した総合医がまず診療を行うほうが有用です。必要に応じ専門医を紹介しますが、認知症やがんの緩和ケアなど頻度が高く在宅療養の維持に支障をきたすような病態には、総合医ができる範囲で管理するように努力すべきと考えます。高齢者にとっては、総合医が「かかりつけ医」になり気軽に相談を受けられるようにすることの方が、輪番制の夜間外来受診より安心でしょう。当院は自ら実践しながら、このような診療を行う開業医の先生方の後方支援病院になることを目指しています。

医療体制はお上が与えてくれるものと考えているような地域では、病院勤務医の立ち去りが止むことはないでしょう。笠間市の医療を守るために、行政・医療機関・住民のそれぞれが、どのようなことができるのか考えるべき時ではないでしょうか。

笠間のがんばる企業紹介⑫

笠間市には、全国でもトップクラスの技術を持つ企業がたくさんあります。このコーナーでは、より良い製品づくりを目指して研究・開発に取り組む市内の企業を紹介します。

日綜産業(株)岩間事業所

東京都中央区に本社を置く日綜産業(株)は、建設用仮設機材においてトップクラスのシェアを誇る企業です。安居地区の岩間事業所では、14万8千m²という広大な敷地内に16万トンもの足場が保管されており、北は北海道から南は静岡まで機材を納入しています。

同社が活躍する領域は建設現場だけにとどまりません。平成10年に開催された長野オリンピックでは、メイン会場に設置された約3万人分の観客席や聖火台を手がけたほか、高松塚古墳の石室解体では風雨を防ぐための覆い屋根を設置しています。常務取締役の山田知也先生にお話を伺いました。

「ひと口に仮設機材といっても、さまざまな分野で活躍しているんですね。」

「解体してしまうと後には残りませんが、現場では絶対に必要なものです。巨大な橋から天を貫く塔まで、あらゆる建設現場に対応するためには、高い技術力と安全への配慮が欠かせません。」

「安全への配慮について、詳しく聞かせてください。」

「建設現場において、『安全』は最優先されるべきものです。」

当社は「安全と技術、信頼の日綜」を社是として、製造段階での検査はもとより、出荷前の整備総点検、そして全ての納入現場で製品別のチェックリストによる安全点検を実施してきました。その甲斐あって、昭和43年の創業以来、当社の製品に起因する労働災害は1件も起こっていません。建設現場の安全・安心を支えてきたことは、私たち全社員にとって大きな誇りとなっています。」

長野オリンピックのメイン会場



日綜産業(株)岩間事業所

従業員数▼120人

敷地面積▼148,000m²

※文責▽笠間市役所企業誘致推進室(内線228)